

四国電力株式会社第 98 回定時株主総会 少数株主提案議案

第 1 号議案 取締役解任の件

議案内容

当社の能力不足と怠慢により、伊方 3 号機の稼働を約 2 年間停止させ、700 億円もの損失を生み出した佐伯勇人会長、長井啓介社長、山田研二原子力本部長の経営監督責任を問い、上記 3 名の取締役の即時解任を決議する。

提案理由

当社は、伊方 3 号機定期検査中の全電源喪失、原子炉制御棒引き抜き、原発敷地内における従業員の保安規定違反、フジツボ等の海洋生物の配管付着放置など、重大事故を繰り返しました。3 号機は 2019 年 12 月 26 日に定期検査に入り、本来なら翌 3 月末には送電開始の予定でした。だが看過できない重大事故を次々と引き起こし、2021 年 12 月 6 日に再稼働するまでの約 20 か月（定検 3 か月を除く）、原発を止め続けました。当社は二言目には「原発を止めると一か月で 35 億円の損失が出る」と言っています。当社の事故による運転停止に当てはめると、35 億円×20 か月＝700 億円もの損失を発生させています。原子力規制委員会からも再三嚴重注意を受けています。しかし管理監督、経営者責任が未だに誰にも問われていないのは異常事態です。安全認識に欠け、経営能力のない上記 3 名が危険な原子力を扱うことに私たちは恐れと怒りを抱いています。

第 2 号議案 定款一部変更の件 (1)

議案内容

定款第 1 章・総則 (目的) 第 2 条と第 3 条の間に、第 2 条の 2 を追加する。

第 2 条の 2 本会社は、福島原発事故の大惨事を教訓にして、南海トラフ巨大地震による伊方発電所における放射性物質放出事故に備え、地域住民のだれ 1 人取り残さない避難および防護、補償計画を作成する。

提案理由

東日本大地震に伴う福島原発事故は周知の通り大惨事を招き、今なお限りない放射能汚染が続いています。「どこまでも菜の花咲くをこの村に摘んでも摘んでもセシウム消えず」。これは、福島の歌人・波汐さんの悲痛な叫びです。この惨劇は、予測された巨大津波の警鐘を黙殺した東京電力幹部による人災に他なりません。

さて当社は大丈夫でしょうか。一昨年来、重大事故に対応する待機要員が職場離脱をしたり、定期検査に伴う作業中に制御棒の誤操作や外部電源の喪失など重大トラブルを続出させた当社の姿勢に、地域住民の不安と不信は増すばかりです。

「地域と共に」を社是とする当社は、地域の人々の信頼をより確かなものとするため、放射性物質放出事故に備え、原発事業者の責任として、地域住民に対する万全の避難・防護・補償計画の作成を、定款に明記します。

第3号議案 定款一部変更の件(2)

議案内容

定款に以下の章を新設し、以下の条文を追加する。

第7章 伊方発電所の廃炉

第40条 本社は、伊方原子力発電所3号機を廃炉にして、再生可能エネルギーを基幹電源にする。

提案理由

2021年12月24日、政府が進める大規模洋上風力の落札価格が1kWあたり11円台という衝撃の結果になりました。この価格は現在の産業用太陽光発電の単価とほぼ同じです。しかも、この価格をつけた箇所の出力は、伊方3号機と遜色のない82万kW。今回の結果は、「再エネ＝高い」という認識を覆しただけでなく、再エネがいよいよエネルギーの主軸となる、新時代の幕開けの宣言となったのです。環境省も2022年度から洋上風力発電の早期稼働を後押しするための事業に乗り出します。国は、2040年までに、原発45基分4,500万kWの洋上風力の導入、そして、2050年までに温室効果ガス排出量を全体としてゼロにすることを表明しています。

当社は、再エネは技術が未熟であると、未だ原発に固執しています。それは言い訳にもなりません。できる理由を探し実践する。それ以外に当社の生き残る道はないのです。

第4号議案 定款一部変更の件(3)

議案内容

第7章に以下の条文を追加する。

第41条 伊方原子力発電所1号機及び2号機の廃炉を2060年度までに完了する。

提案理由

当社は、伊方原子力発電所1号機の廃止措置作業を2017年9月に、同2号機を2021年1月に、それぞれ開始しています。当社の「よんでんグループ統合報告書2021」によれば、廃炉への工程は第1段階「解体工事準備期間(約10年)」、第2段階「原子炉領域周辺設備解体撤去期間(約15年)」、第3段階「原子炉領域設備等解体撤去期間(約8年)」、第4段階「建家等解体撤去期間(約7年)」の4期に分かれ、約40年の長期間におよぶと記されています。廃炉費用は、各約400億円と見積もられています。廃止措置作業を「安全確保を第一に着実に進めていくのは当然ですが、約40年にもおよぶ重要な業務の期限目標を定款に定めて、廃炉に向けた決意と責任を明らかにすることは当社への信頼と「持続的な企業価値創造」につながります。

未来を考える脱原発四電株主会

共同代表 本田耕一

佐藤公彦

丸井美恵子

内田知子

事務局 771-0117 徳島県徳島市川内町鶴島 120-1